

## [CASE 05]

# よしだ たくや 吉田 拓矢さん

河北町消防団 第1分団第1部第2班

## 火事や災害は身近だからこそ 消防の知識は大事なもの



**河** 北町で生まれ、町外で育った吉田さんは、実家の引越しをきっかけにUターン。その後、周りの人からの勧めもあって消防団へ入団しました。

「消防団に入るまで、消防の知識や経験はゼロに近い状態でした。しかし入団を考えるようになると火事や水害が発生した際に、大きな被害を受けたり怖い思いをしている人たちを身近に見て、このままでいいのだろうかという想いが芽生えました」

実際に消防団員として活動する中で、普段の訓練や点検などが火災現場で役に立ったと感じる時があったそう。また消防団ならではのやりがいもあります。

「心肺蘇生や火事の現場で人を助けることは特殊な技術ですので、一般の方はなかなかできるものではないと思います。そのような技術が身に付けられるのは、消防団ならではの、同時に『自分の住んでいる町の生命と財産を守ることに貢献している』というやりがいも感じます。これからも地域の安全を守り続けるために、仲間を増やし、次の世代へ技術の継承も意識していきたいですね」

### Q1 どんな活動をしていますか？

月に一度、消防団のポンプ車に乗って、鐘を鳴らしながら順路を巡り、消火栓や防火水槽に異常がないか点検をする定期巡回を行っています。その他にも、春は害虫発生予防のため河川敷付近の野焼き、冬は防火水槽の周りの雪かきを行うなどさまざまな活動に取り組んでいます。



### Q2 消防団はどんな雰囲気ですか？

私は大人になってから河北町に戻ったので、当初は知り合いなどいない状態でした。しかし消防団に入ったことで、さまざまな人と知り合うことができ、地域のつながりができました。消防団は人とのつながりができ、年齢に関わらず世代を越えて楽しく友好的な関係を築いていける場所ではないかと思っています。



町を守りながら、さまざまな知識や経験を得られます！



1. 西村山支部操法大会での一コマ。自動車の部として参加しました
2. 消防団ではさまざまな年代や職業の方と出会うことができます
3. 家族の協力があって、消防団の活動を続けられています